



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

5月15日 妙見大菩薩年大祭

妙見様は毎月15日がお縁日です

より深くお縁を結ぶことができるのがお縁日です

当山では特に5月のお縁日を年大祭として特別法要を厳修します

〔5月の主な行事〕

★写経会 8日(日) 11時

☆妙見大菩薩年大祭 15日(日)

11時 修法加持特別祈禱

お申込の方の特別祈禱を厳修します
 事前のお申込を受け付けております

11時50分 講話 宝泉寺住職

鳥居恵教上人

★月例祈願法要

★鷗様月例祭

15日(日) 13時
 22日(日) 15時

〔6月の行事予定〕

★写経会

★清掃の日

★月例祈願法要

★鷗様月例祭

12日(日) 11時
 15日(水) 11時
 15日(水) 13時
 22日(水) 15時

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎ご祈禱・ご回向等は

郵便・FAX・メールでも受付けています

◎写経はご自宅でもできます お問合せ下さい

○出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は休止

○送迎車の運行は休止しています

◆ケープル&リフトは水・木が定休日です。ただし

桜の時期など例外があります。詳細は能勢電鉄へ

お問い合わせ下さい。(TEL072-792-7716)

他のためには、 我のため

日慧

能勢の山道は見通しの悪いカーブが多く、特に日曜日や祝日などは車も多く、十分な注意が必要です。

かつて、長野県の山岳地帯を友人の運転で走った時のこと。彼は二車線のセンターラインギリギリまで内側に入って飛ばしていました。

山道に慣れている私が危ないと注意すると、

「でもセンターラインまではこちらに権利がある。センターラインを割って出なければ問題ないよ」

平然として答えました。

それはそうかもしれませんが、しかしこれは権利義務の問題ではありません。権利を主張しても、怪我をして痛い目にあうのは自分です。それよりも、互いに気をつけ譲りあってこそ、楽しいドライブができるということです。

ギスギスした世の中、ことにコロナの猛威が続き、世界情勢も穏やかならざる今の状況においては、互いに思いやりの心をもって過ごすことがなにより大切なことではないでしょうか。

宗祖日蓮聖人は、

「人のために火をともしせばわが前あきらかなる」と説示されています。

真つ暗闇の夜道を歩いてる時に、難儀している人がいるとします。その人のために灯りをとりだして道を照らします。灯りはその人のためにもしたものであっても、その灯りによって、自分自身の前も明るくなり歩きやすくなります。

他のためにした行為であっても、実はそれがそのまま結果としては、自分自身のためになるのだということを示された遺訓です。人は一人では生きていきません。週れば数え切れないご先祖の存在があり、周

りの大勢の人たちの力があがり、様々な存在と共に支え合って生きていくのです。互いに他のために尽くすことがそのまま自分を助けることになり、より良い世の中が実現できるのです。

自分一人の、あるいは自国の利に駆られて他を害する暴挙に出るなどということとは、厳に慎まなければならぬことで、結果としては自分自身を傷つけることとなってしまうのです。

一口メモ

御祈祷札の効力期限というものはあるのでしょうか？
こんなご質問をいただく事があります。入試合格祈願など特別な願いでご祈祷した御札は、願いが叶えられればお礼参りして納めます。また交通安全や家内安など日常の願いは歳始めや誕生日など一年の節目、あるいは月初めにお礼参りし、新たに御祈祷してもらうのがよいでしょう。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

汝

彼の国を

軽しめて

下劣の想いを

生ずること

なかれ

戦争は

国と国との噛み合い

人と人との殺し合い

勝っても負けても

恨みは残る

相手の国をば軽しめまいぞ

脅しじや 事は解決しない

互いに望むは 平和な世界

胸を開いて 話し合え

『妙音菩薩品第二十四』

仏教まめ辞典

願懸け

願とは、願い望むこと、念願・願望です。その願いを仏神に祈ることを「願を懸ける」「願掛け」といいます。

特に仏・菩薩が必ず成しとげようと心に誓い願うことを誓願といい、法華経方便品では、仏は「一切の衆生がみな仏になり、安穩な仏の世界が実現しよう」という旨の誓願を述べられています。

この仏の誓願は、単に言葉として述べられたものではありません。必ず実現してみせる、実現に向けての努力を決して惜しまないという決意が込められているのです。

私たちは様々な願望を抱き仏天に祈ります。しかしその願いは仏の誓願に沿った（全ての人の幸福につながる）ものでなくてはなりません。また単に祈るだけではなく、その実現に向けて初心を忘れず切磋琢磨（修行）してこそ願が成就するのです。